



はざま しげ とみ

間重富と科学



～中国・ヨーロッパとの接点～

平成 29 年 2 月 26 日 (日) 午後 2 時～4 時

(開場午後1時30分)

●会場：大阪市立中央図書館 5階大会議室

●定員：300名(当日先着順) ●入場無料

第1部

「重富指定史料から見た 間重富の天文学研究」

かず つぐと

講師：嘉数次人氏

(大阪市立科学館学芸担当課長)

講師プロフィール：

1965年大阪生まれ。1990年大阪教育大学大学院修了。同年より大阪市立科学館学芸員。科学館では天文担当としてプラネタリウムの投影や企画をはじめとした業務に携わりながら、専門の近世科学史について調査研究を行っている。

質屋を営む町人ながら天文学を究め、寛政の改暦に携わるなどの活躍をした間重富は、どのようにして最先端の研究を行なったのでしょうか。幕府天文方に出仕し、どのような仕事に携わったのでしょうか。2016年に重要文化財に指定された間重富関連史料をひもときながら、間重富の活動の様子をご紹介します。

第2部

「間重富とガリレオ-中国経由の西洋知識-」

よしだ ただし

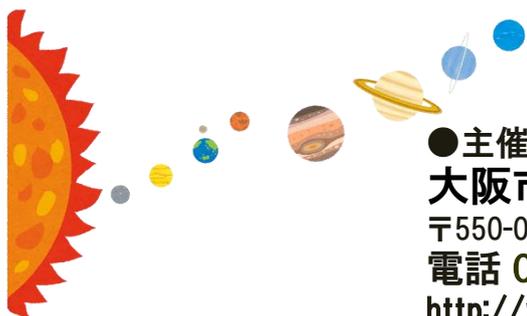
講師：吉田忠氏

(東北大学名誉教授)

講師プロフィール：

1940年三重県生まれ。1963年東京大学教養学部卒業。1974年プリンストン大学(アメリカ)Ph.D. 東北大学文学部附属日本文化研究施設教授を経て、同大学東北アジア研究センター教授、2004年定年退職。専門は科学史、蘭学史。

ガリレオと言えば、地動説を主張したため、宗教裁判にかけられたイメージが強く、彼の業績すべてが禁じられたと思われるかも知れません。しかし彼が見つけた法則の一部は中国を経由して間重富へと伝わっています。そこで、ガリレオ発見の落体の法則と振り子の等時性に着目して、その伝達の経路と重富による研究についてお話します。



●主催・お問い合わせ
大阪市立中央図書館
〒550-0014 大阪市西区北堀江4-3-2
電話 06-6539-3302
<http://www.oml.city.osaka.lg.jp>



(地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線西長堀駅7号出口すぐ)

平成28年8月、間重富・間家関係文書が 国の重要文化財に指定されました。

大阪歴史博物館および大阪市立中央図書館が所蔵する「間重富関係資料一括」を国の重要文化財に指定することについて、平成28年8月17日付けの官報において告示されました。

内容は、下記の通りです。

＜時代＞ 江戸時代後期

＜所有者＞ 大阪市(大阪歴史博物館、大阪市立中央図書館)

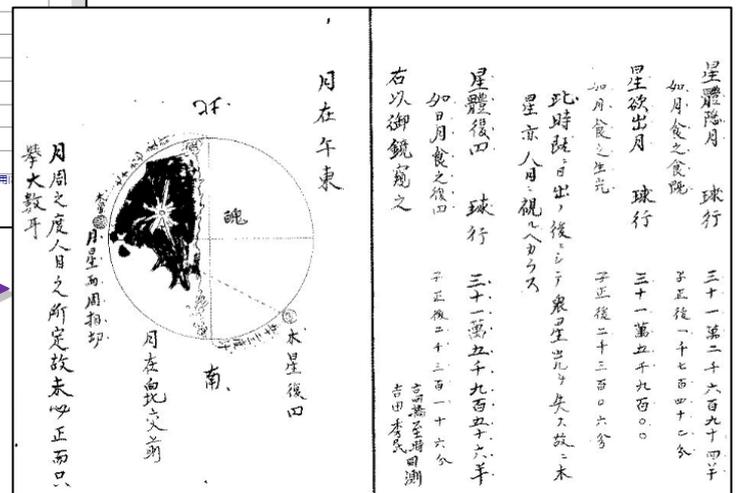
＜説明＞

- ・本品は、江戸幕府の改暦事業に従事した、大坂の町人天文学者・間重富に関わる天文観測関係資料です。
- ・間重富は、西洋天文学の理論で測量結果を検証することにより、当時の天文暦学の発展に多大な貢献をしました。
- ・本資料群は、天体の測量記録を中心に、著述稿本をはじめとする文書、典籍、観測機器、地図・絵図等で構成され、わが国の天文暦学研究上、学術的価値の高い資料群です。

★当館の「間重富・間家関係文書」は、
「大阪市立図書館デジタルアーカイブ <http://image.oml.city.osaka.lg.jp/archive/>」
上のデジタル画像でご覧いただけます。



『寛政七年以後凌犯：高橋氏実測記十五楼』



★間重富とは

間重富は、宝暦6年(1756年)十一屋という質屋(阿波座羽間家)の第6子として生まれましたが、兄たちが夭折したため、第7代目を継ぎました。初め、姓は羽間でしたが、のちに間と改めました。麻田剛立の門下で天文学を学び、幕府に命ぜられて寛政の改暦事業に従事、大坂に帰って以後も、長堀富田屋橋北詰(現在の西区)の自宅で御用観測を続けました。重富の子、重新も家業と観測を引き継ぎ、その後、重遠・重明と四代にわたって御用観測が行われました。